

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：オオヨドカワゴロモの保全について ～自生地拡大への取り組み～	
水系/河川名：一級河川大淀川水系 岩瀬川	河川分類：中小河川
河川の流域面積：225.2km ²	整備計画流量：1250m ³ /s(W=1/30) セグメント：1
事業：環境整備	事業開始年度 平成28年度
目標設定：定量的	段階：C(モニタリング・評価時)
課題・目的(主な)：貴重種、特定動植物の保全	
工法(主な)：移植、植樹	
配慮事項(主な)：その他	

背景・課題、目標設定

岩瀬川には、大淀川流域にしか見られないカワゴケソウ科のオオヨドカワゴロモが自生しているが、これは環境省指定の絶滅危惧種で、国の天然記念物として指定されている。

現在、魚道の新設を計画している箇所において、オオヨドカワゴロモが自生していることが確認され、工事の影響により消滅してしまう可能性があるため、支川への移植を行うこととした。

※オオヨドカワゴロモとは・・・カワゴケソウ科の植物で岩瀬川のみに生育。平成28年3月に国の天然記念物に指定。

<目標>

- ・詳細が判明していないオオヨドカワゴロモの生態等について、調査し、移植試験を行う。
- ・現場付近の高校生と合同で、オオヨドカワゴロモの調査及びモニタリングを経年的に行う。

取り組み内容・対策例



<過去の取り組み>

- ・ダム建設に伴い、オオヨドカワゴロモが消滅してしまう可能性があったため、本線である岩瀬川から、工事の影響を受けない支線の谷之木川へ移植を行っている。

移植方法

- ①岩瀬川の自生地付近に石及びFRP版を設置
- ②経過観察後、石及びFRP版にオオヨドカワゴロモの付着を確認
- ③石及びFRP版を谷之木川へ再度設置し、自生を確認

<今回の取り組み>

- ・谷之木川に石を設置し、経過観察
- ・オオヨドカワゴロモがより付着しやすい素材を検討するために、ポーラスコンク

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<モニタリング結果>

- ・簡易的に設置した石にオオヨドカワゴロモが付着していることが確認できた。(H27.10 石設置、H28.8 オオヨドカワゴロモの付着を確認)



ポーラスコンクリートブロック



- ・谷之木川近隣の小林高校(探求科学コース)と合同で、オオヨドカワゴロモの観測を実施。(H28.11月末に第2回活動実施)

- ・水質、水温、水深等を調査し、オオヨドカワゴロモの生育条件を定量的に評価

備考